

C-34 和裁に於ける採寸方法についての一考察(オズ報)

東京家政大家政 高月智志子

目的 和服の着やすさ、着にくさの要因は、いろいろあるが、今回は大裁女物長着について、最も着やすい、着丈、身丈の寸法設定にあたり、どのように採寸し、算出するのが妥当か考察を試みた。

方法 本学学生1・2・3年生355名を被験者とし、和服の丈に関係すると思われる部位の人体計測を行なった。

結果 着装にあたり、後裾線は、床より2cmが最も形がよく、又腰紐による、丈の縮みは、約2cmである、従って、着丈の採寸は、肩山から床までを、体型にそわせて計り、これを着丈とすることが適当と考えられる。

身丈については、前総丈と後総丈の差は、体型により、個人差が大きく、10cmあった、そこで、前総丈、即ち、肩山から体型にそわせて、床まで計り、これに、おはしよりの加えたものも、身丈とすることが妥当と考えられる。

おはしよりの長さについては、次の式により求めることが出来た。

前総丈 - 腸骨稜 + 5 ~ 6 cm - (前総丈 - 腰紐の位置) × 2